

小美玉市長
島田 穰一 様

百里基地での V22 オスプレイの訓練中止を求める申し入れ

北関東防衛局が自衛隊木更津駐屯地に暫定配備されているV22オスプレイを使用し、本年8月以降に航空自衛隊百里基地で月に複数回の訓練を行う計画を明らかにしました。

私たちは7月29日、防衛大臣、百里基地司令にオスプレイ機の百里基地への飛来及び訓練計画中止の申入れ書を提出し、百里基地周辺自治体を訪問し、首長の皆さんに次のことを訴えました。

オスプレイ機が開発段階から30人もの乗組員が死亡する重大事故を起こし、実践配備後も相次ぐ墜落等の死亡事故を起こしている「欠陥機」であること。

防衛省は、「オスプレイは安全な飛行機だ」と宣伝しているが、10万時間あたりの飛行時間でオスプレイ機の事故率が高く、欠陥機であることが統計上でも明らかであること。

防衛省は「事故率は安全性の一つの指標に過ぎない」とし、事故の原因の多くを「それぞれの事故は人為ミス」と片付けていることは大きな問題であり、構造上の欠陥であれ、人為的ミスであれ、オスプレイ機の事故は多発していること。

住民の生活といのちを守る立場の地方自治体こそが、オスプレイの飛行訓練問題を看過せず、県や関係機関に対して声を上げていかなければならないこと。

「百里基地の周辺住民は、長年戦闘機訓練の爆音被害を受け、事故の危険性と隣り合わせの生活をしてきました。重大事故が起きてからでは遅いのです」「地元住民を危険にさらす、欠陥機オスプレイの百里基地飛来に反対し、訓練中止の声を上げてください」と要請しました。

その後、オスプレイ訓練中止を求める声は、基地周辺地域の「百里飛行場周辺協議会」も北関東防衛局に対して「MV22 オスプレイの訓練参加は容認できないことから、今後の訓練計画に位置付けない」と再三に渡って要望してきたことを述べた上で、「危険性が極めて高いオスプレイの百里基地での飛行訓練の中止」を求めたことが報道されました。

しかし、北関東防衛局は、地元住民や私たちの訓練中止申入れを無視する形で8月26日にはオスプレイ1機を飛来させ、「計器進入訓練」を行いました。

また、その後の報道では「百里飛行場周辺協議会」が小美玉市と市議会に対し、「協定書の締結」を求める陳情を行ったことが明らかになりました。

以上のような経過から、私たちは住民の生命・基本的人権を守る立場にある貴職に対し、改めて下記の項目について申し入れを行います。

記

- 一. オスプレイは事故率の高い欠陥機であり、地元住民を危険にさらす百里基地周辺地域での訓練を認めず、北関東防衛局に訓練中止を申し入れること。
- 一. 住民の生命・基本的人権・生活権を侵害し、犠牲にすることを容認した上で「地域振興」を求めるような「オスプレイ訓練受入れ協定書」は、絶対に締結しないこと。
- 一. 欠陥機オスプレイは、ヘリモードから飛行機モードへの転換時の事故多発の危険性が指摘されており、「基地敷地内」以外の周辺地域でヘリモードから飛行機モードへの「転換モード」での飛行を行うことは「日米合同委員会」でも安全確保の観点から禁止している。

このようなことからオスプレイ機の百里基地への飛来、及び訓練には中止を申し入れること。

2021年9月17日

申し入れ団体 百里基地反対連絡協議会

百里基地反対同盟		梅沢 優
百里訴訟弁護団		谷萩 陽一
茨城県平和委員会	代表理事	近藤 輝男
茨城平和擁護県民会議	代表	鈴木 博久
農民運動茨城県連合会	事務局長	村田 深
社会民主党茨城県連合	代表	井坂 章
日本共産党茨城県委員会	委員長	上野 高志
新社会党茨城県本部	委員長	金子 和雄

かすみがうら市長
坪井 透 様

百里基地での V22 オスプレイの訓練中止を求める申し入れ

北関東防衛局が自衛隊木更津駐屯地に暫定配備されているV22オスプレイを使用し、本年8月以降に航空自衛隊百里基地で月に複数回の訓練を行う計画を明らかにしました。

私たちは7月29日、防衛大臣、百里基地司令にオスプレイ機の百里基地への飛来及び訓練計画中止の申し入れ書を提出し、百里基地周辺自治体を訪問し、首長の皆さんに次のことを訴えました。

オスプレイ機が開発段階から30人もの乗組員が死亡する重大事故を起こし、実践配備後も相次ぐ墜落等の死亡事故を起こしている「欠陥機」であること。

防衛省は、「オスプレイは安全な飛行機だ」と宣伝しているが、10万時間あたりの飛行時間でオスプレイ機の事故率が高く、欠陥機であることが統計上でも明らかであること。

防衛省は「事故率は安全性の一つの指標に過ぎない」とし、事故の原因の多くを「それぞれの事故は人為ミス」と片付けていることは大きな問題であり、構造上の欠陥であれ、人為的ミスであれ、オスプレイ機の事故は多発していること。

住民の生活といのちを守る立場の地方自治体こそが、オスプレイの飛行訓練問題を看過せず、県や関係機関に対して声を上げていかなければならないこと。

「百里基地の周辺住民は、長年戦闘機訓練の爆音被害を受け、事故の危険性と隣り合わせの生活をしてきました。重大事故が起きてからでは遅いのです」「地元住民を危険にさらす、欠陥機オスプレイの百里基地飛来に反対し、訓練中止の声を上げてください」と要請しました。

その後、オスプレイ訓練中止を求める声は、基地周辺地域の「百里飛行場周辺協議会」も北関東防衛局に対して「MV22 オスプレイの訓練参加は容認できないことから、今後の訓練計画に位置付けない」と再三に渡って要望してきたことを述べた上で、「危険性が極めて高いオスプレイの百里基地での飛行訓練の中止」を求めたことが報道されました。

しかし、北関東防衛局は、地元住民や私たちの訓練中止申し入れを無視する形で8月26日にはオスプレイ1機を飛来させ、「計器進入訓練」を行いました。

また、その後の報道では「百里飛行場周辺協議会」が小美玉市と市議会に対し、「協定書の締結」を求める陳情を行ったことが明らかになりました。

以上のような経過から、私たちは住民の生命・基本的人権を守る立場にある貴職に対し、改めて下記の項目について申し入れを行います。

記

- 一. オスプレイは事故率の高い欠陥機であり、地元住民を危険にさらす百里基地周辺地域での訓練を認めず、北関東防衛局に訓練中止を申し入れること。
- 一. 住民の生命・基本的人権・生活権を侵害し、犠牲にすることを容認した上で「地域振興」を求めるような「オスプレイ訓練受入れ協定書」は、絶対に締結しないこと。
- 一. 欠陥機オスプレイは、ヘリモードから飛行機モードへの転換時の事故多発の危険性が指摘されており、「基地敷地内」以外の周辺地域でヘリモードから飛行機モードへの「転換モード」での飛行を行うことは「日米合同委員会」でも安全確保の観点から禁止している。

このようなことからオスプレイ機の百里基地への飛来、及び訓練には中止を申し入れること。

2021年9月17日

申し入れ団体 百里基地反対連絡協議会

百里基地反対同盟		梅沢 優
百里訴訟弁護団		谷萩 陽一
茨城県平和委員会	代表理事	近藤 輝男
茨城平和擁護県民会議	代表	鈴木 博久
農民運動茨城県連合会	事務局長	村田 深
社会民主党茨城県連合	代表	井坂 章
日本共産党茨城県委員会	委員長	上野 高志
新社会党茨城県本部	委員長	金子 和雄

行方市長

鈴木 周也 様

百里基地での V22 オスプレイの訓練中止を求める申し入れ

北関東防衛局が自衛隊木更津駐屯地に暫定配備されているV22オスプレイを使用し、本年8月以降に航空自衛隊百里基地で月に複数回の訓練を行う計画を明らかにしました。

私たちは7月29日、防衛大臣、百里基地司令にオスプレイ機の百里基地への飛来及び訓練計画中止の申入れ書を提出し、百里基地周辺自治体を訪問し、首長の皆さんに次のことを訴えました。

オスプレイ機が開発段階から30人もの乗組員が死亡する重大事故を起こし、実践配備後も相次ぐ墜落等の死亡事故を起こしている「欠陥機」であること。

防衛省は、「オスプレイは安全な飛行機だ」と宣伝しているが、10万時間あたりの飛行時間でオスプレイ機の事故率が高く、欠陥機であることが統計上でも明らかであること。

防衛省は「事故率は安全性の一つの指標に過ぎない」とし、事故の原因の多くを「それぞれの事故は人為ミス」と片付けていることは大きな問題であり、構造上の欠陥であれ、人為的ミスであれ、オスプレイ機の事故は多発していること。

住民の生活といのちを守る立場の地方自治体こそが、オスプレイの飛行訓練問題を看過せず、県や関係機関に対して声を上げていかなければならないこと。

「百里基地の周辺住民は、長年戦闘機訓練の爆音被害を受け、事故の危険性と隣り合わせの生活をしてきました。重大事故が起きてからでは遅いのです」「地元住民を危険にさらす、欠陥機オスプレイの百里基地飛来に反対し、訓練中止の声を上げてください」と要請しました。

その後、オスプレイ訓練中止を求める声は、基地周辺地域の「百里飛行場周辺協議会」も北関東防衛局に対して「MV22 オスプレイの訓練参加は容認できないことから、今後の訓練計画に位置付けない」と再三に渡って要望してきたことを述べた上で、「危険性が極めて高いオスプレイの百里基地での飛行訓練の中止」を求めたことが報道されました。

しかし、北関東防衛局は、地元住民や私たちの訓練中止申入れを無視する形で8月26日にはオスプレイ1機を飛来させ、「計器進入訓練」を行いました。

また、その後の報道では「百里飛行場周辺協議会」が小美玉市と市議会に対し、「協定書の締結」を求める陳情を行ったことが明らかになりました。

以上のような経過から、私たちは住民の生命・基本的人権を守る立場にある貴職に対し、改めて下記の項目について申し入れを行います。

記

- 一. オスプレイは事故率の高い欠陥機であり、地元住民を危険にさらす百里基地周辺地域での訓練を認めず、北関東防衛局に訓練中止を申し入れること。
- 一. 住民の生命・基本的人権・生活権を侵害し、犠牲にすることを容認した上で「地域振興」を求めるような「オスプレイ訓練受入れ協定書」は、絶対に締結しないこと。
- 一. 欠陥機オスプレイは、ヘリモードから飛行機モードへの転換時の事故多発の危険性が指摘されており、「基地敷地内」以外の周辺地域でヘリモードから飛行機モードへの「転換モード」での飛行を行うことは「日米合同委員会」でも安全確保の観点から禁止している。

このようなことからオスプレイ機の百里基地への飛来、及び訓練には中止を申し入れること。

2021年9月17日

申し入れ団体 百里基地反対連絡協議会

百里基地反対同盟		梅沢 優
百里訴訟弁護団		谷萩 陽一
茨城県平和委員会	代表理事	近藤 輝男
茨城平和擁護県民会議	代表	鈴木 博久
農民運動茨城県連合会	事務局長	村田 深
社会民主党茨城県連合	代表	井坂 章
日本共産党茨城県委員会	委員長	上野 高志
新社会党茨城県本部	委員長	金子 和雄

銚田市長

岸田 一夫 様

百里基地での V22 オスプレイの訓練中止を求める申し入れ

北関東防衛局が自衛隊木更津駐屯地に暫定配備されているV22オスプレイを使用し、本年8月以降に航空自衛隊百里基地で月に複数回の訓練を行う計画を明らかにしました。

私たちは7月29日、防衛大臣、百里基地司令にオスプレイ機の百里基地への飛来及び訓練計画中止の申入れ書を提出し、百里基地周辺自治体を訪問し、首長の皆さんに次のことを訴えました。

オスプレイ機が開発段階から30人もの乗組員が死亡する重大事故を起こし、実践配備後も相次ぐ墜落等の死亡事故を起こしている「欠陥機」であること。

防衛省は、「オスプレイは安全な飛行機だ」と宣伝しているが、10万時間あたりの飛行時間でオスプレイ機の事故率が高く、欠陥機であることが統計上でも明らかであること。

防衛省は「事故率は安全性の一つの指標に過ぎない」とし、事故の原因の多くを「それぞれの事故は人為ミス」と片付けていることは大きな問題であり、構造上の欠陥であれ、人為的ミスであれ、オスプレイ機の事故は多発していること。

住民の生活といのちを守る立場の地方自治体こそが、オスプレイの飛行訓練問題を看過せず、県や関係機関に対して声を上げていかなければならないこと。

「百里基地の周辺住民は、長年戦闘機訓練の爆音被害を受け、事故の危険性と隣り合わせの生活をしてきました。重大事故が起きてからでは遅いのです」「地元住民を危険にさらす、欠陥機オスプレイの百里基地飛来に反対し、訓練中止の声を上げてください」と要請しました。

その後、オスプレイ訓練中止を求める声は、基地周辺地域の「百里飛行場周辺協議会」も北関東防衛局に対して「MV22 オスプレイの訓練参加は容認できないことから、今後の訓練計画に位置付けない」と再三に渡って要望してきたことを述べた上で、「危険性が極めて高いオスプレイの百里基地での飛行訓練の中止」を求めたことが報道されました。

しかし、北関東防衛局は、地元住民や私たちの訓練中止申入れを無視する形で8月26日にはオスプレイ1機を飛来させ、「計器進入訓練」を行いました。

また、その後の報道では「百里飛行場周辺協議会」が小美玉市と市議会に対し、「協定書の締結」を求める陳情を行ったことが明らかになりました。

以上のような経過から、私たちは住民の生命・基本的人権を守る立場にある貴職に対し、改めて下記の項目について申し入れを行います。

記

- 一. オスプレイは事故率の高い欠陥機であり、地元住民を危険にさらす百里基地周辺地域での訓練を認めず、北関東防衛局に訓練中止を申し入れること。
- 一. 住民の生命・基本的人権・生活権を侵害し、犠牲にすることを容認した上で「地域振興」を求めるような「オスプレイ訓練受入れ協定書」は、絶対に締結しないこと。
- 一. 欠陥機オスプレイは、ヘリモードから飛行機モードへの転換時の事故多発の危険性が指摘されており、「基地敷地内」以外の周辺地域でヘリモードから飛行機モードへの「転換モード」での飛行を行うことは「日米合同委員会」でも安全確保の観点から禁止している。

このようなことからオスプレイ機の百里基地への飛来、及び訓練には中止を申し入れること。

2021年9月17日

申入れ団体 百里基地反対連絡協議会

百里基地反対同盟		梅沢 優
百里訴訟弁護団		谷萩 陽一
茨城県平和委員会	代表理事	近藤 輝男
茨城平和擁護県民会議	代表	鈴木 博久
農民運動茨城県連合会	事務局長	村田 深
社会民主党茨城県連合	代表	井坂 章
日本共産党茨城県委員会	委員長	上野 高志
新社会党茨城県本部	委員長	金子 和雄

茨城町長

小林宣夫 様

百里基地での V22 オスプレイの訓練中止を求める申し入れ

北関東防衛局が自衛隊木更津駐屯地に暫定配備されているV22オスプレイを使用し、本年8月以降に航空自衛隊百里基地で月に複数回の訓練を行う計画を明らかにしました。

私たちは7月29日、防衛大臣、百里基地司令にオスプレイ機の百里基地への飛来及び訓練計画中止の申し入れ書を提出し、百里基地周辺自治体を訪問し、首長の皆さんに次のことを訴えました。

オスプレイ機が開発段階から30人もの乗組員が死亡する重大事故を起こし、実践配備後も相次ぐ墜落等の死亡事故を起こしている「欠陥機」であること。

防衛省は、「オスプレイは安全な飛行機だ」と宣伝しているが、10万時間あたりの飛行時間でオスプレイ機の事故率が高く、欠陥機であることが統計上でも明らかであること。

防衛省は「事故率は安全性の一つの指標に過ぎない」とし、事故の原因の多くを「それぞれの事故は人為ミス」と片付けていることは大きな問題であり、構造上の欠陥であれ、人為的ミスであれ、オスプレイ機の事故は多発していること。

住民の生活といのちを守る立場の地方自治体こそが、オスプレイの飛行訓練問題を看過せず、県や関係機関に対して声を上げていかなければならないこと。

「百里基地の周辺住民は、長年戦闘機訓練の爆音被害を受け、事故の危険性と隣り合わせの生活をしてきました。重大事故が起きてからでは遅いのです」「地元住民を危険にさらす、欠陥機オスプレイの百里基地飛来に反対し、訓練中止の声を上げてください」と要請しました。

その後、オスプレイ訓練中止を求める声は、基地周辺地域の「百里飛行場周辺協議会」も北関東防衛局に対して「MV22 オスプレイの訓練参加は容認できないことから、今後の訓練計画に位置付けない」と再三に渡って要望してきたことを述べた上で、「危険性が極めて高いオスプレイの百里基地での飛行訓練の中止」を求めたことが報道されました。

しかし、北関東防衛局は、地元住民や私たちの訓練中止申し入れを無視する形で8月26日にはオスプレイ1機を飛来させ、「計器進入訓練」を行いました。

また、その後の報道では「百里飛行場周辺協議会」が小美玉市と市議会に対し、「協定書の締結」を求める陳情を行ったことが明らかになりました。

以上のような経過から、私たちは住民の生命・基本的人権を守る立場にある貴職に対し、改めて下記の項目について申し入れを行います。

記

- 一. オスプレイは事故率の高い欠陥機であり、地元住民を危険にさらす百里基地周辺地域での訓練を認めず、北関東防衛局に訓練中止を申し入れること。
- 一. 住民の生命・基本的人権・生活権を侵害し、犠牲にすることを容認した上で「地域振興」を求めるような「オスプレイ訓練受入れ協定書」は、絶対に締結しないこと。
- 一. 欠陥機オスプレイは、ヘリモードから飛行機モードへの転換時の事故多発の危険性が指摘されており、「基地敷地内」以外の周辺地域でヘリモードから飛行機モードへの「転換モード」での飛行を行うことは「日米合同委員会」でも安全確保の観点から禁止している。

このようなことからオスプレイ機の百里基地への飛来、及び訓練には中止を申し入れること。

2021年9月17日

申入れ団体 百里基地反対連絡協議会

百里基地反対同盟		梅沢 優
百里訴訟弁護団		谷萩 陽一
茨城県平和委員会	代表理事	近藤 輝男
茨城平和擁護県民会議	代表	鈴木 博久
農民運動茨城県連合会	事務局長	村田 深
社会民主党茨城県連合	代表	井坂 章
日本共産党茨城県委員会	委員長	上野 高志
新社会党茨城県本部	委員長	金子 和雄